

第66号

2018年12月
認定特定非営利活動法人

麦の会

TEL&FAX

022-299-1279

〒983-0834 仙台市宮城野区松岡町17-1

郵便振替口座 02200-8-46178

E-mail : muginokai@k5.dion.ne.jp

http://www.muginokai-koppe.com

認定NPO法人麦の会

コッペ30周年記念シンポジウム・記念パーティへ、是非ご参加下さい！

飯嶋 茂

コッペは今年で30周年を迎えます。続けて来ることができたのは、楽しそうに働いている障害当事者がいたからと、美味しいといってくれるお客さんがいたからこそです。これまで支えてきてくれた皆さんに感謝するとともに、皆さんとお話しする中でこれらからのコッペを考える機会にしたいと思っています。

是非、コッペ30周年記念シンポジウムとパーティへおいで下さい。

日時 2019年2月10日(日) シンポジウム 13時～15時半

記念パーティ 16時～18時

場所 仙台サンプラザ

会費 シンポジウム 500円 パーティ5,000円

*詳しくは同封のチラシをご覧ください。お待ちしております。

| | | | |
|----|-----------------------------------|-------|--------|
| 目次 | コッペ30周年記念シンポジウム・記念パーティへ、是非ご参加下さい！ | 飯嶋 茂 | ・・・1 p |
| | みやぎアピール大行動アピール | | ・・・2 p |
| | みやぎアピール大行動当事者発言 | 岩崎 稔 | ・・・3 p |
| | グループホームに入って | 宮原 洋子 | ・・・5 p |
| | 3人6脚 | 日下 由美 | ・・・6 p |
| | 新人のヘルパーさん | 阿部 央希 | ・・・8 p |
| | 再び、ソレイユまつり | 氏家 大介 | ・・・8 p |

前号でお知らせしましたが、今年のアピール大行動 2018 が 9 月 24 日に行われました。当日の「アピール文」と岩崎さんの当事者発言を当日資料より転載します。

なくていいのちなんてない！いま自由と生存を考える みやぎアピール大行動2018 アピール

昨年、私たちはこの場所で「すべての人に生きる権利があり、幸福を求める権利があり、誰もがそれを侵すことはできない」と宣言した。このような宣言をしなければいけないほど、自由と生存が脅かされている。

一昨年の7月26日に相模原市の津久井やまゆり園で起きた、障害者殺傷事件を風化させてはならない。事件を起こした被告は現在においても謝罪も反省も述べず、その正当性を主張している。被告は当初「意思表示ができない障害者は不幸をつくり出すことしかできないので社会に必要な」と語ったとされる。その根底にあるのは、生きていいのちと生きるべきではないいのちを分ける優生思想だ。この事件だけでなく、社会には「障害者は不幸である」という考え方が根強くある。

同様の思想のもとに、かつての優生保護法では子どもを産んでよい人、産むべきでない人を分けて、強制的に子どもを産めなくさせる手術が行なわれていた。

宮城県では強制不妊手術の被害に対して今年1月、国に謝罪と補償を求める訴訟が初めて提起され、全国へ広がっている。

7月には、杉田水脈衆議院議員が雑誌への寄稿で「LGBTのカップルは子どもを産まないから、生産性がない」と主張し、「公的な支援は必要なのか」と疑問を投げかけた。このことは人権を踏みじめる言葉で偏見・差別に満ち、断じて許されるものではない。

また、多くの省庁及び行政機関における障害者雇用者数の水増しが発覚した。先頭に立つべき行政が、障害者の雇用をないがしろにしていた事実で怒りがこみ上げてくる。

ほかにも様々なところで社会的入院や身体拘束、虐待、出生前診断などの人権侵害・差別が今も存在し、自由が奪われている。

人のいのち・生活、幸・不幸は誰かが決めるものではない。押しつけられるものでもない。このような圧力と向き合い、たえず訴えていく。『なくていいのちなんてない。共に生きていく』と。

私たちはこれまで、障害者の生活をより困難なものにした障害者自立支援法に反対する運動で連帯してきた。これからもこの場に集まった仲間、集えずとも同じ思いを強く持っている仲間たちとともに、障害の有無やさまざまな立場を越え共に暮らせるみやぎをつくっていこう。そして、本日、みやぎアピール大行動に結集した私たちは、自信と誇りと決意を胸に、12回目の街へ出よう。

2018年9月24日

みやぎアピール大行動2018参加者一同

当事者発言 岩崎 稔さん (詩人)

「みやぎアピール大行動 2018」に、仙台に暮らす障害者の一人として、当事者アピールをさせていただきます。

私は岩崎航というペンネームで詩やエッセイを書いています。難病「筋ジストロフィー」のために、人工呼吸器と胃ろうをつけて、生活のすべてに介助を得ながら自宅で暮らしています。

今年7月、自民党の杉田水脈衆議院議員が月刊誌「新潮 45」にLGBTの性的指向を尊重するのは日本の社会秩序を乱すという考えを示して、少子化対策としての子育て支援や不妊治療を受けるカップルへの支援とは異なり、子どもを生まないLGBTの人たちには次世代を育む「生産性がない」ので公的支援の必要性に疑問を感じるという持論を寄稿しました。

差別に基づく偏った発言を、国会議員や有名作家など社会的に影響のある人が垂れ流すのは、近年の見飽きた風景になっていますが、今回は、スルーしてはならない危機感を持ちました。なぜなら、特に、国政を担う公人の立場で「生産性がない」から支援の必要もないと判断してしまう部分は、LGBTの人たちへの差別に留まらず、重度の障害者にも、子を産まない人生を送る人をも傷つける攻撃になるからです。

障害者は、家族や介護者にも社会にとっても非生産的な迷惑な存在であり、だからその人たちを税金で公的に支援することはムダなのだと思う人は一定程度います。杉田議員のLGBTの人たちへの主張もそれに連なる考え方で、それは2年前に起きた相模原事件の植松聖被告と同質の発想です。彼は重度の心身重複障害者に対し、まさに「生産性がない」と考えて、社会の迷惑で周りに不幸をもたらすだけだと生存を否定し、実際に人の命を奪いました。

杉田議員の主張が極めて悪質だと思うのは、社会の中で影響力のある政治家が発言することで、こうした暴力の芽を社会に広げてしまうからです。社会にとっての貢献ができない「生産性がない」人には生きる価値が低いと考える世間の空気を吸って影響されたという面では、植松被告も、杉田議員も同様で、そして彼らに共感して一部、支持する市民が少なくないのもそうでしょう。

明らかな差別、人権侵害に対して、「人それぞれ政治的立場、いろんな人生観、考えがある」と括ってしまうのは、間違っています。私は杉田議員のような発言や、こうした発言を黙認する空気は、徹底的に拒絶することが必要ではないかと思います。

彼らの言う「生産性がない」という理屈で選別すれば、私もそこに入れこ

まれる人間です。子供を作っていませんし、納税する額の収入を稼いでもいません。社会のある一面においての「生産性」があるかどうかで人権に軽重をつけ、人の生き方や命の価値まで量ろうとするのは、人間を軽んじ、馬鹿にしていることです。そんな誤った考えは断固拒絶しなければなりません。

人はいつどうなるかわかりません。自分自身、もしくは家族友人が、生まれつきだったり、不慮の出来事で障害を持つこともあるでしょう。気づいたら同性の人を愛するようになっていくこともあるでしょう。子どもを産みたくても産めない体になる場合もある。さらにいえば、マイノリティーかどうかに関わらず、老いて年をとったら全ての人が公的支援を受けることになります。

支援される立場になる、ということをも自分ごととして考えていないから、支援に対して身勝手な基準を設けてしまえるのではないのでしょうか。

以前、私はエッセイで、【人が「働く」ということは労働市場の価値だけでは決まらない】と、自作の五行詩を書きました。

私には同じ病を持つ兄がいるのですが、今は病院で暮らす兄と家で一緒に過ごしていた時、家の中で引きこもるような日々を過ごしていました。兄の居る場所はだいたい決まっていて、テーブルの縁に肘をかけて座っているのが常だったのですが、それは将来の展望が見えず虚しい時間を過ごして居る私にとって、とてもほっとする光景だったのです。その時、兄は気の利いた言葉をかけたわけでも、何かをしたわけでもありません。いつでもそこにいてくれる、一緒に生きていてくれるだけでも、私は大きな恵みを受け取りました。それも人の「はたらき」だと思ふのです。

人を社会にとっての「生産性」の有無という眼差しで見るとは貧しい思想です。貧しい目で見れば、子供を作らない、職に就き稼ぐことができないような人は、何もできないししていない、生きる価値の低い人間に映るのでしょう。しかしそれは、多様に人が生きるということ考えるに当たって非常に浅薄な考え方です。

杉田議員や植松被告の目にはまだ見えていない豊かな世界が人間関係には広がっています。その豊かな可能性を狭めることを許してはいけません。ただ、そこに居るだけでいい、生きていてだけで十分というのが人の命であるはずで、外部から条件などつけてはいけなく、つけられるはずがない。そんな貧しい思想を流してはいけなく、許してはいけなく。徹底的に戦わなければなりません。

こんなことを説明しなければならぬ現実に、恐ろしさを感じます。私も怯まずに対抗する声をあげたいと思います。

7月12-7月ホーランドにX、Z

宮原洋子

おはよう！ 朝の安否確認のTELで一日のスタート！！

南光台2丁目アパート7Fのママの娘の区域に於て94月。

去年7月理事会で進捗はhas 7月-7月ホーランド語を用いた大勢の出席
に於て道子の反応は私かびのり！ has 具体的な仕事は何。是学でして頂
12月には気持の好みに 津波の運送に――

(この事でも行くと記録はしたもので7月7日(成りました)

いかに子供が来るに於ては初めに知の作業。生活の道具を揃え作業に
本人は一人分の4人分を揃えお母の7777の様子。昨日の見て不審の様子に
私か気持の好みに??? 娘の力では...と自分に休養に言「南」に――

今年2月3日お祝いの。 7月12日ホーランド

14時~20時 22時~6時 世話人の安心お母の10名に合せて生活の街を敷設
下の娘の家の確認の12月12日の。 7月安心

入居する男子5人 女子2人 計7人 道子以外は20人の若人達

7月6時~6時半に共有室の2階の自室に合心録の12月客巻を返して

翌日の朝食をむすぶ。 20時~22時お母の7月12日。 道子は

私か気持の好みに。 7月8時前にはお母の7月12日。 各々の部屋に。

7月私か気持の好みに。 TEL。 8時前にはお母の7月12日。 最終の私か

最終の上安堵の胸を7月12日お母の7月12日。 12月12日お母の7月12日。 12月12日

お母の7月12日。 お母の7月12日。 12月12日お母の7月12日。 12月12日

12月12日お母の7月12日。 12月12日お母の7月12日。 12月12日お母の7月12日。

12月12日お母の7月12日。 12月12日お母の7月12日。 12月12日お母の7月12日。

12月12日お母の7月12日。 12月12日お母の7月12日。 12月12日お母の7月12日。

12月12日お母の7月12日。 12月12日お母の7月12日。 12月12日お母の7月12日。

新人のヘルパーさん

阿部 央希



ヘルパーさんと一糸者になって
本当によかったと思っています。

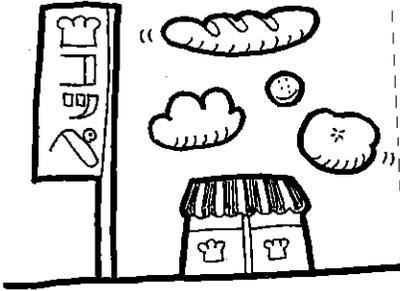
ずっと僕はヘルパーさんと

おでかけするのはうれしいです。

優しくしてきちんと障害者事も

教えて移動するのは大事な仕事です。

僕はとても楽しくヘルパーさんが
来て本当にうれしく思っています。



ソレイユマツリ10月20日(土)に

ソレイユまわりにはいきました。

いらしたのいませといはした

あきやんといはした

あてるはカレーをたてました。

ふたがとんといはなをしました

またはいちもんもソレイユまわりにはいきました。



比嘉 大介